

英語コーパス学会 Newsletter No. 82

July 30, 2017

■会長: 投野 由紀夫
■事務局: 〒157-8511 東京都世田谷区成城6-1-20 成城大学社会イノベーション学部 石井康毅研究室気付
■郵便振替口座: 00930-3-195373(英語コーパス学会)
■URL: <http://jaecs.com/> ■e-mail: jaecs.hq@gmail.com ■twitter: @JAECs2012

JAECs
Japan Association for English Corpus Studies

■SIG に貢献, ご参加を!

投野 由紀夫 (英語コーパス学会会長)

2017年4月の理事会で Special Interest Group (SIG)の立ち上げが承認されました。コーパス言語学は方法論としてさまざまな学問領域に影響を与えており、本学会でも毎年、歴史言語学、理論言語学、社会言語学、認知言語学、語用論、文体論、辞書学、外国語教育といった分野での発表があります。会員の皆さんの研究分野も多様化している中、英語コーパス学会の将来像を考えた時、より具体的なテーマでの研究グループの活性化が皆さんのニーズを満たすのではないかと期待を持ってSIG発足を提案いたしました。

現在、新しいSIGの申請を受け付けております。詳細は英語コーパス学会 web ページをご参照ください。基本的に会員5人が集まれば、どのようなテーマでSIGを立ち上げてくださってもかまいません。例えば私は「コーパスとCEFR」というSIGを自分で作りたいですし、「コーパス・ツール」、「コーパスと統計」、「アノテーション」などは学会独自のSIGとして意義があると思います。また当然、上記の関連諸分野でのSIG立ち上げもありえるでしょう。そういったSIGが中心で広く会員の初心者などにも役立つセミナーやワークショップ等を企画して下さると学会全体も大変恩恵を得るのではないかと思います。

SIGは秋の理事会で最初の審査があり、大会の総会で紹介し、会則改定を承認していただく予定です。その後、随時申請を受け付けますので、研究テーマを共有する皆さんで是非話し合っただけでSIGの立ち上げにご参加いただきたいと思います。

私の望みは、学会活動を会員諸氏が主体的にお考えいただき、自分が学会の運営や研究レベルの向上に貢献しようという意欲をもたれる方が一人でも多く行動を起こされることです。そして、その中から次世代の学会を背負って立つ人材が育ってくることです。会員諸氏の積極的なご参加を期待しております。

■春のシンポジウム報告

2017年4月22日に大阪大学(豊中キャンパス)にて、英語コーパス学会の春のシンポジウムが開催されました。本シンポジウムは第一部「英語コーパス言語学における齊藤俊雄先生の功績」、第二部「コーパス言語学の最前線: 国際学会の動向」となっていました。シンポジウムの内容を、司会・発表の先生がまとめてくださいましたので、掲載いたします。

第一部「英語コーパス言語学における齊藤俊雄先生の功績」

堀 正広 (熊本学園大学)

英語コーパス学会初代会長齊藤俊雄先生が2016年12月17日に他界された。先生の生前のご功績を讃え、心から感謝の意を表するために、英語コーパス学会春季行事として、2017年4月22日(土)午後2時からシンポジウムの第一部「英語コーパス言語学における齊藤俊雄先生の功績」を開催することになった。

シンポジウムを始めるにあたり、齊藤俊雄先生に謹んで哀悼の意を表するため、全員で1分間の黙祷を捧げた。シンポジウムの講師は、大阪大学名誉教授及び摂南大学名誉教授今井光規先生、徳島大学名誉教授中村純作先生、三重大学教授西村秀夫先生、関西学院大学教授梅咲敦子先生、そして司会の熊本学園大学の堀正広である。資料として、西村秀夫先生に作成していただいた、齊藤俊雄先生の経歴と業績を配布した。

最初の講師は、齊藤先生の大阪大学時代の同僚であり、英語コーパス学会第2代会長であった今井光規先生である。今井先生は、「JAECsの黎明期」について、齊藤先生との出会いから英語コーパス学会の設立前後の齊藤先生のご苦勞と活動ぶりをお話しになった。とくに中世ロマンスのコンコードダンス編纂における齊藤先生との共同研究については、英語コーパス学会の前身である「英語コーパス研究会」の発足(1993年4月)の8年前

であったことを考えると、その後の学会の設立の萌芽がすでにこのときに見られていたのだと知った。

二人目の講師は、英語コーパス学会第3代会長で、事務局長として長年齊藤先生を支えてこられた中村純作先生である。先生は、英語コーパス学会の初期の時代を振り返られて、学会の発祥の経緯や齊藤先生との関わりの中での齊藤先生の人となりをお話しになった。John Sinclair, Jan Aarts, Birmingham 大学など世界の英語コーパス研究の先駆者や発祥の地との関わりは、齊藤先生も中村先生も英語コーパス学会の設立当初から世界の動向をにらんで会を運営されてきたことを示すものだと改めて知ることができた。

三人目の講師は、中世ロマンス研究会を通じて学生時代から齊藤先生と関わってこられた西村秀夫先生である。西村先生は、「英語コーパス研究会発足前夜」に関して、齊藤先生と今井先生がコンコーダンスを作成されたことと関連して、『英語英文学研究とコンピュータ』（齊藤俊雄編、英潮社、1992年）が編集された背景、この書物の元となった近代英語協会のシンポジウムのこと、さらにそれが英語コーパス研究会発足の原動力の一つとなったことなどについて語られた。

最後の講師は、齊藤先生のもとで博士号を取得された梅咲敦子先生である。梅咲先生は、齊藤先生のお人柄について述べられた後、英語コーパス言語学における齊藤先生の功績について話された。齊藤先生の功績として、次の4点を指摘された。(1) 学会の立ち上げ、(2) 研究内容の確立と伝達、(3) 日本の研究を海外へ、(4) 海外の研究を日本に。そして、最後に英語コーパス学会の行方に関する齊藤先生の発言を紹介された。「英語コーパス言語学は一学問分野になってゆくのか、コーパスが研究手段として、他の研究分野に吸収されてゆくのか？」

本シンポジウムは、齊藤俊雄先生の英語コーパス学会への貢献の大きさを改めて知る機会となった。シンポジウムには、歴代の会長が勢揃いし、多くの会員や齊藤先生とご縁のある方々の参加を得て、齊藤先生のご功績をみんなで振り返った。

齊藤先生のご冥福を心からお祈りいたします。

第二部「コーパス言語学の最前線：国際学会の動向」

◇ ICAME (International Computer Archive of Modern and Medieval English)の紹介

高橋 薫 (東京理科大学)

ICAME は、コンピュータ時代の幕開けとともにオスローにて設立された。1977年のことである。Nelson Francis, Stig Johansson, Jan Svartvik, Geoffrey Leech の錚々たる学者たちが設立したその目的は、コンピュータで処理可能な言語資料に関する情報の共有と研究の促進、さらにはコーパスの編纂であった。ノルウエーの Bergen では同年、マイクロフィルムによる the Brown Corpus のリリースを皮切りに、その2年後には、the LOB corpus さらには the London-Lund Corpus がコンピュータテープにより入手可能となった。これらは、1985年には19カ国に広まることになる。ちなみに当時日本の研究者に渡った個数が10との記載が ICAME News 8 (1984)にある。なお、この ICAME News は、1978年に第1号が発刊され、2016年現在で40号となる。また、1999年リリースの The ICAME Corpus Collection on CD-ROM, version 2 は各種の written, spoken テキストで構成されており、コーパスの研究者にとってこの上ない分析資料となった。

大会は毎年国を変えて開催されており、大会テーマの推移をみると、Helsinki (2006) - Towards Multimedia in Corpus Studies. Research Unit for Variation, Contacts and Change in English, Nottingham (2014) - Corpus Linguistics, Context and Culture, Hong Kong (2016) - Corpus Linguistics across Cultures とあるように、社会言語学的要素が反映されているなかで、比較的最近開催の Trier (2015) では、そのテーマが、Words, words, words - corpora and lexis とあり、語彙そのものの研究に原点回帰しているという点も ICAME ならではのと言えるのではなかろうか。なお、日本人研究者の嚆矢として、中村純作先生が Zürich (1993) で Quantitative comparison of modals in the Brown and LOB corpora を発表されて以降も多くの方々が大会に出掛けている。なお、本年度のプラハ大会は5月末にすでに終了しており、来年は5月末から6月初旬にかけてフィンランドの Tampere での開催が予定されている。

◇ TaLC (Teaching and Language Corpora)の紹介
中條 清美 (日本大学)

1994年、第1回の言語教育とコーパスの国際会議、Teaching and Language Corpora (TaLC) が Lancaster 大学で開催された。それ以降、2年に1度ヨーロッパ各国の大学を回って、第12回目の TaLC12 が2016年7月20日から23日の4日間、ドイツのフランクフルトから列車で1時間のゲー

センにある Justus Liebig University で開催された。プログラム構成はほぼ毎回同じで、キーノート 5 件、発表 50 件、ポスター 18 件、ワークショップ 4 件である。TaLC12 の場合、発表セッションの内訳は、Learner Corpus Research が 3 セッション、DDL (Data-driven Learning) が 2 セッション、Corpus Tools & Corpus as a Tool が 2 セッションで、以下、Corpora Development & Projects, Corpus Tools & Methodology, Teaching & Teacher Training, ESP Settings, Error Analysis & L2 Learning, Academic Writing, Text Type & Genre が各 1 セッションずつであった。TaLC6 (2004 年グラナダ大学) より連続 7 回参加してみて感じる TaLC の魅力は、①専門的で密度の濃い発表が多いこと、②こじんまりしていてアットホームな雰囲気、③学会ツアーが楽しみ、④著名な研究者に直接会えること、⑤ほぼ毎回本が出版されてきたことである。TaLC の最多参加者は投野由紀夫会長であり、前回の TaLC12 には JAECS 会員の阿部真理子 (中央大学)、アントニ・ローレンス (早稲田大学)、佐竹由帆 (駿河台大学) の各氏と筆者 (日本大学) が参加し発表を行った。次回の TaLC13 は、2018 年 7 月中旬に Cambridge 大学で開催予定である。筆者も多くの JAECS 会員と参加できればと願っている。

◇ AACL (American Association of Corpus Linguistics) の紹介

水本 篤 (関西大学)

1999 年に発足し、隔年、もしくは不定期で北米の大学で開催されている、American Association of Corpus Linguistics (AACL) 2016 年度大会は、9 月 16 日から 18 日の 3 日間アイオワ州立大学で開催された。今回は、コンピュータを利用した研究が盛んに行われているアイオワ州立大学で毎年開催されている Technology for Second Language Learning (TSLL) と共催であったため、コーパスを用いた研究でも、ライティング指導のような教育寄りのトピックを扱った発表が多く行われていた。ワークショップは、R を使ったコーパス言語学の分析 (Gries), BYU コーパスの紹介 (Davies), コーパス言語学で使用する正規表現 (Egbert) の 3 件、基調講演は、ビッグデータ (Grieve), コーパスによる文学の分析 (Mahlberg), アカデミック・ライティング (Hyland) の 3 件であった。研究発表は 91 件、ポスター発表は 24 件あり、アットホームな雰囲気ながらも、非常に内容の濃い学会であった。日本からは、Laurence Anthony 先生 (早稲田大学)、山

崎俊次先生 (大東文化大学) も発表者として参加されていた。参加してみて感じたことは、Douglas Biber (Northern Arizona University) を中心としたグループの影響が大きいということと、研究のレベルとしては英語コーパス学会も負けていないという点であった。次回開催予定は未定であるが、ぜひ AACL にも英語コーパス学会員諸氏が積極的に参加し、日本の研究レベルの高さをアピールしていただきたいと願っている。

英語コーパス学会第 43 回大会のお知らせ

日時：2017 年 9 月 30 (土) ～10 月 1 日 (日)

場所：関西学院大学 (西宮上ヶ原キャンパス)

土曜日はワークショップ・研究発表・懇親会、日曜日はワークショップ・講演・シンポジウムの予定です。詳細については 8 月前半に当学会ウェブサイトに掲載予定のプログラム、ならびに 8 月下旬にお送りする大会資料をご覧ください。

■ 新入会員紹介

新井恭子 (活水女子大学)

出縄貴良 (非常勤講師)

James Rogers (名城大学)

高橋留美 (昭和大学)

今井康貴 (京都大学, S)

王ウエイトン (明治大学, S)

中山周作 (明治学院大学, S)

日吉佑太 (テンプル大学, S)

渡部文乃 (京都大学, S)

黒田絢香 (大阪大学, S)

(S は学生会員)

(2016 年 11 月 25 日から 2017 年 7 月 1 日の入会者)

■ 理事会の決定事項について

2017 年 4 月 22 日 (土) に大阪大学大学院言語文化研究科 (豊中キャンパス) において理事会が開催されました。承認された人事についてご報告いたします。

(1) 理事

・理事 (退任)

西納春雄先生 (同志社大学)

深谷輝彦先生 (椋山女学園大学)

堀正広先生 (熊本学園大学)

山崎俊次先生（大東文化大学）

2017年3月末をもって、西納先生、深谷先生、堀先生、山崎先生が理事をご退任されました。会長を務めていただいた堀先生をはじめ、4人の先生方には各種委員会や論文審査、大会運営等、本学会を長きにわたってリードしていただき、当学会の発展に多大なるご尽力をいただきました。先生方、お疲れ様でした。今後ともご指導のほどよろしくお願い致します。

(2) 事務局

- ・会計（新任）
宇佐美裕子先生（東海大学）
- ・監事（再任）
加野まきみ先生（京都産業大学）

加野先生、引き続きよろしくお願ひいたします。宇佐美先生、これからよろしくお願ひいたします。

(3) 編集委員会

- ・委員（退任）
大和田栄先生（東京成徳大学）

大和田先生、長きにわたり学会誌の編集にご尽力いただき、お疲れ様でした。誠にありがとうございました。

(4) 学会賞選考委員会

- ・委員長（退任）
新井洋一先生（中央大学）
- ・委員長（新任）
西村秀夫先生（三重大学）
- ・委員（退任）
深谷輝彦先生（椋山女学園大学）

新井先生、これまで委員長の重責を担っていただきありがとうございました。深谷先生、これまで長きにわたり学会賞をご選考いただき、誠にありがとうございました。西村先生、お忙しい中、激務の役職をお引き受け下さりありがとうございました。どうぞよろしくお願ひいたします。

(5) 大会企画委員会

- ・委員（退任）
田中省作先生（立命館大学）

田中先生、大会企画をとおして学会を大いに盛り上げていただき、誠にありがとうございました。

■ 会誌『英語コーパス研究』第25号論文投稿募集について

『英語コーパス研究』第25号の原稿を次の要領で募集いたします。会員各位の積極的な投稿をお待ちしております。

【原稿の種類】

1. 英語コーパス利用・コンピュータ利用を中心に据えた「研究論文」、「研究ノート」、「総説論文」、「書評論文」、「実践報告」
2. 「書評」、「コーパス紹介」、「ソフトウェア紹介」、「海外レポート」、「論文紹介」などの各種情報あるいは紹介原稿

【原稿提出締め切り】2017年11月30日（木）

電子メール添付にて提出してください。提出方法等についての詳細は学会 Web ページの投稿規定 http://jaecs.com/jnl/jnl_kitei.pdf を参照してください。

*原稿執筆のためのスタイルシート（和文用と英文用）を用意する予定です（下記参照）。論文等執筆の大枠はこれまでのものと大きくは変わりませんが、参考文献については、国際的な基準のものにできるだけ則すように改定したいと考えています。

【問い合わせ先・原稿提出先】

『英語コーパス研究』編集委員会
e-mail: jaecs.ed@gmail.com

【採用通知】2018年1月

【刊行予定】2018年5月下旬

『英語コーパス研究』編集委員会委員長
中尾 佳行（福山大学）

■ 英語コーパス学会東支部 2016年度活動報告

大和田 栄（東京成徳大学）

東支部としての研究会を年度末の3月に下記のように開催しました。前年度より言語学の様々な分野でのコーパス利用について、他分野の研究者が知見を得る機会となるよう計画し、昨年度の「社会言語学」に引き続き、今回は「歴史言語学」

をテーマとしました。西村講師による 1991 年の Helsinki Corpus 公開以降の 25 年間の史的英語コーパスに関わる言語研究の概観に続き、神谷講師、塚本講師からは句動詞について、YCOE, PPCME2 を利用した成果についての研究報告が行われました。研究会には 24 名の参加があり、会の終了後、懇親会が行われました。

なお、既に報告されている通り、2016 年度で東支部は解散することとなり、東支部としては最後の活動となりました。講習会、研究発表会、ワークショップ、研究会など、これまで様々な形で東支部の活動に関わっていただいた方々に感謝するとともに、英語コーパス学会の新たな活動が軌道に乗って進められることを期待しています。

<JAECS 東支部研究会>

日時：2017 年 3 月 11 日（土）14:00-17:00

場所：東京成徳大学 東京キャンパス（東京都北区十条台）

□実施内容

研究会：コーパスの言語学諸分野における活用(2)
歴史言語学

司会・講師 塚本 聡（日本大学）

講師 西村秀夫（三重大学）

講師 神谷昌明（豊田工業高等専門学校）

□各講師テーマ

西村 秀夫「史的英語コーパスの 25 年」

神谷 昌明「句動詞の起源・発達-古英語に現れる接頭辞付動詞の抽出：YCOE を利用して-」

塚本 聡「ME における句動詞の変遷-PPCME2 を利用して-」

■ 今後の大会日程と開催校

第 44 回大会は 2018 年 9 月下旬から 10 月上旬に東京理科大学にて開催する方向で現在調整を行っています。

■ 事務局から

事務局からは情報発信のツールとして、ホームページ、ニューズレター、JAECS メーリングリストでイベントの案内などを随時行っております。

◇会費納入のお願い

2017 年度会費（一般 6,000 円、学生 3,000 円）未納の方は、6 月にお送りした払込取扱票を使ってお納めいただきますよう、ご協力をお願いいたします〔振替口座：00930-3-195373〕。払込取扱票

を紛失された方は、郵便局に備え付けのものに加入者名「英語コーパス学会」とご記入の上お納めください。

過年度会費未納の方は、2017 年度分と併せてお納めください。過年度会費未納の場合、機関誌などの送付を一時中止させていただいております。

住所、所属などに変更や異動のある方は、学会ウェブサイトの「会員情報変更」からのお手続きをお願い申し上げます。

※会員の皆様には、日頃より会費の当該年度内納入にご協力をいただきまして、お礼申し上げます。会費を滞納されますと、退会時に滞納分をまとめてお支払いいただくといった事態にもなりかねません。会員の皆様におかれましては、円滑な学会運営のためにご協力いただけましたら幸いです。なお、退会を希望される場合は、当該年度内に学会ウェブサイトの「退会手続」からのお手続きをお願い申し上げます。

◇Forum の原稿募集中！

英語コーパス学会 Newsletter では会員の皆様からの Forum への投稿を募集しています。国際学会報告、研究会の紹介、新刊紹介など、会員の皆様の情報交換の場として Forum が活用されることを願っております。以下、詳細を記します。

- Forum のテーマ：国際学会報告、研究会の紹介、新刊紹介など英語コーパス学会にとって有益と思われる情報
- 締め切り：5 月末あるいは 10 月末
- 分量：800-1600 字程度（画像も可です）
- 送付先：jaecs.hq@gmail.com

2017年7月30日発行

編集・発行 英語コーパス学会
会長 投野 由紀夫
事務局 〒157-8511 東京都世田谷区成城 6-1-20
成城大学社会イノベーション学部
石井康毅研究室気付
e-mail: jaecs.hq@gmail.com
twitter: @JAECS2012
URL: <http://jaecs.com/>
